

教 科	芸術 科	科目	音楽Ⅰ	学年	第 1 学年	系列 コース	共通
単位数	2 単位	教科書	音楽Ⅰ Tutti+(17教出 音Ⅰ-701)				
副教材	なし						

1. 学習の到達目標

(1) 楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景、作曲者及び演奏者による表現の特徴、伝承方法、様式など広い視野で音楽を捉え、音楽の多様性を理解し、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。
(2) 音や音楽を知覚・感受し、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばしたり、音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高める力を養う。
(3) 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、そこに価値を見いだせる感性を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景、作曲者及び演奏者による表現の特徴、伝承方法、様式など広い視野で音楽を捉え、音楽の多様性を理解し、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深められている。
②思考・判断・表現	音や音楽を知覚・感受し、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばしたり、音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、表現に生かそうとしている。
③主体的に学習に取り組む態度	音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもち、価値を見いだせる感性を高めようとしている。

3.学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容	
1 学 期	4月	1	校歌を覚える 手話コーラス	親しみやすいJ-POPの歌を、手話を取り入れ、手話コーラスとしての楽しみを味わいながら高校の音楽学習への意欲を養う。また、高校生として音楽を学ぶにあたって、自分にとっての音楽の存在を再認識するとともに、様々な音楽に自ら積極的にに関わり、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとする態度を養う。 語感、歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズにどのように表され、曲想を生み出しているかに関心をもち、自己のイメージをもって音楽を感じ取る。	
		2			
		3			
		4			
	5月	5	音楽の構成		
		6			
		7			
		8			
		9			
	6月	10			
		11			
		12			
		13			
	7月	14			
		15			
		16			
2 学 期	8月	17	イタリアの音楽	イタリア語の言葉の特性と旋律やリズム、曲の構成などとの関わりに関心をもち、言葉の抑揚や限後のもつ質感を捉えながら自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。 和楽器の表現活動を通して、日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取る。また、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、郷土の伝統音楽の特徴について理解する。 やさしいリズムパターンを組み合わせ、緊密なアンサンブルを構築する。やさしいテクニックでありながら、それらを合わせることで高度な演奏効果を上げられるという特徴を感じ取る。	
		18			
	9月	19			
		20			
		21			
		22			
	10月	23	三線		
		24			
		25			
		26			
		27			
	11月	28			リズムアンサンブル
		29			
		30			
		31			
	12月	32			
33					
34					
3 学 期	1月	35	ヴァイオリン	楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態の特徴について理解する。 楽器の奏法を身に付けるとともに、楽曲の音楽表現を創意工夫しながら演奏する。 音楽の根本的な技術である変奏の技法に関心をもち、主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかを理解し、他の変奏曲と比較して聞くことにより、音楽表現の共通性や固有性について考える。	
		36			
		37			
		38			
	2月	39			
		40			
		41			
		42			
	3月	43			変奏曲の魅力
		44			
		45			

4. 評価の方法

実技テスト、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、各評価の観点（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。